

長野県水道ビジョン策定に向けた地域検討会の概況

長野県 環境部 水大気環境課

1 開催概要

(1) 目的

地域における水道事業の課題や取り組むべき方策を共有し、地域における水道のあり方や連携方策等について研究、検討を行う。

(2) 開催日時・場所（開催順）

圏域	開催日	時間	場所
飯伊	平成 28 年 2 月 2 日（火）	10:00～12:00	南信消費生活センター 2 階大会議室
諏訪	平成 28 年 2 月 2 日（火）	14:30～16:30	諏訪合同庁舎 502 会議室
北信	平成 28 年 2 月 8 日（月）	10:00～12:00	北信合同庁舎 202・203 会議室
長野	平成 28 年 2 月 8 日（月）	14:00～16:00	長野合同庁舎南庁舎 901 会議室
大北	平成 28 年 2 月 10 日（水）	10:00～12:00	大町合同庁舎 302 会議室
松本	平成 28 年 2 月 10 日（水）	14:00～16:00	松本合同庁舎 502 会議室
木曾	平成 28 年 2 月 15 日（月）	10:00～12:00	木曾合同庁舎 401・402 会議室
上伊那	平成 28 年 2 月 15 日（月）	14:00～16:00	伊那合同庁舎 302 会議室
上小	平成 28 年 2 月 18 日（木）	10:00～12:00	上田合同庁舎 601・602 会議室
佐久	平成 28 年 2 月 18 日（木）	14:00～16:00	佐久合同庁舎 502 会議室

※ 上小・長野圏域については、上小地域、長野地域として別に開催し、会議のなかで両地域間の連携についても議論することとした。

(3) 水道事業者の出席者

公営水道事業者（市町村、広域水道事業者）の局長、課長級職員

※県企業局は末端給水事業者として上小及び長野、用水供給事業者として松本の 3 か所に出席

(4) 県出席者

水大気環境課、地方事務所環境課

2 会議内容

(1) 長野県水道ビジョンの検討状況について

第 2 回長野県水道ビジョン検討委員会までの経過や骨子案について参加者に報告を行った。

(2) 圏域における連携策について

- ・事業者が抱える課題、取るべき方策についての意見交換を行った。
- ・圏域の特徴や事業者単独での取組の限界を踏まえ、圏域で考えられる連携策や圏域の大局的な方向性について意見交換を行った。

3 結果

(1) 概要

- 県水道ビジョンと水道事業ビジョン、経営戦略の整合性についての質問が多く出された。
- 事業統合や経営の一体化は、将来的な方向性としても描くことが難しいと考える事業者が多くみられた。
- 事業者が個別に進めている施設整備計画や業務計画の見直しを迫られるような連携策には慎重な姿勢を示す事業者が多くみられた。
- 個別具体的な業務においては、事業者間の利益が一致した場合に、その範囲において業務の共同化を図る等の事業者間連携を図っていくことが必要との認識が示す事業者が多くみられた。
- 圏域において事業者間の情報交換や連携方策を検討する場を設定することに関して、各地で合意を得た。

(2) 圏域毎の主な意見（議事メモから抜粋）

ア 佐久圏域

課題について	計画的な 施設更新	<ul style="list-style-type: none"> ・財源確保が困難であり、法定耐用年数 40 年では更新できない。60 年くらいでみていかないと更新していくことはできない。(市) ・公営水道は大口需要もあり黒字で現在のところ支障ない。いずれ管の敷設替えが必要になってくると不安。(町) ・水道ビジョンおよび拡張計画より敷設替え等は遅れ気味。平成 30 年なかばには起債返還が少なくなるので、それ以降は、順次更新は可能と見込んでいる。中長期的な計画を検討している。(町) ・昭和 54 年ごろに本管を敷設しておりそろそろ入れ替えをしなければならないが、財源が厳しい。(村) ・水道管は昭和 60 年に敷設しておりそろそろ入れ替え時期。5 年かけて調査をして更新計画をたてようと検討中。(村)
	人員確保 技術継承	<ul style="list-style-type: none"> ・現状で問題ない。技術者は確保している。(町) ・自治体単体では技術者不足に対応が困難。技術力のある職員がいなくなる見込みで育成も困難 (町) ・課題は職員の確保。技術がある退職者を再雇用している。技術継承が難しい。見合う人材の応募もない。(町) ・規模が小さく人手も少ない。(村) ・統合認可申請や経営戦略の策定など、職員一人での対応は困難。委託せざるを得ないが、その分経費がかかり、敷設替えに費用がまわせない状況。(村) ・職員は採用確保しているが、技術継承、人材育成は課題。管路の事故が生じたときの対応も課題。(企)
	経営健全 化、効率 化	<ul style="list-style-type: none"> ・財源の頼りは水道料金しかないため、計画的に積み立てをしている。(町) ・佐久水道企業団へ統合を進めてきたが、水道料金の値上げについて地域の理解を得ることができず一部の簡水が残っている。(町) ・水と空気はタダという地域の風習があり、水道料金の値上げは困難。(村) ・膜ろ過装置を導入したが、ランニングコストが増えるが、その分を料金に反映させるのは困難。(村) ・管路がとても長い。水源地と消費地が別の市町村をまたいでいる。(企) ・起債に交付税での補てんが無い場合、水道料金によらざるを得ないが、県内で一番高いと言われている中で値上げは困難。(企) ・これまで、概ね 3 年毎に料金改定を行ってきたが、こここのところ据え置き。構成団体からの申込水量も減少傾向にあるため収益も減少。長期的にみると、現在の事業規模を縮小していかなくてはならない。(企)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・法適用外の民営水道が多い (町) ・水質の硬度が高く、下げるのが課題。(企) ・佐久圏域水道水質検査協議会も経営維持が難しい。新たな機器購入が必要となるが財源がない。構成団体へ繰出金を求めることも難しい。(企)

連携等について	広域・事業者間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・資材共同購入については小諸市、軽井沢町、御代田町で検討したが財務規則上難しかったので途中でやめた経緯がある。(町) ・窓口徴収事務は共同委託ができればスケールメリットがあると考える。(町) ・技術者については広域連携の中で技術的な育成等支援はしてほしい。(町) ・手がつけやすい連携について検討を深めていきたい(町) ・外部委託の検討にしても、職員がいないためなのか、財源がないためなのか、理由によって対応も異なる。(企)
	広域化等	<ul style="list-style-type: none"> ・管路の更新時期が各自治体によって異なるため、広域統合はなかなか難しい。(町) ・佐久水道企業団へ統合の話が一番早いですが、昔からの水利権や先人の思いなどから、なかなか統合には踏み切れないのが現状。(町) ・「自分たちの水」という意識が残っており、水源を合理化するにしても水融通面で理解を得るのが難しいことが、統合の支障となることもある。(企) ・広域のメリットとして統合すれば料金値下げになると考えるのは間違い。(企) ・経営はやはり水道料金が基本となる。「お金を集めることができるところで集め、それで山間部などをまかなう」というのが広域化の意味ではないか。(企) ・広域水道へ移管する場合に、施設が更新できていない所の費用負担はどちらがするのかという問題もある。(企) ・市民の意識向上もあり、水道料金を別地域の赤字補てんに使用することに理解が得られない。(企)
	その他	<p>【用水供給からの受水に関する今後の意向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己水源はあるが使えないところがあるので、自己水源のみでできるかと言えば難しい(市) ・綿密な計算はしていないが用水の購入単価は安いという印象。夏季に水需要が高くなる地域のため、用水供給には助けてもらっている立場。(町) ・自前でまかなう水量はある。災害時には助けてもらわなくてはならないので、現状維持。(町) ・地形的に南部を水源とする水の供給範囲には限界があり用水供給は必要との認識。水質(硬度が高い)がよくなればもっと買い込みたい。(企)

イ 上小・長野圏域（上小地域）

連携等について	圏域区分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県企業局との「水道事業運営研究会」で事業者間連携について話し合いを行っている。他の市町村を同列に含めて、上小・長野で一圏域とするのは疑問。この10年間であればそれぞれで考えていく方がよい。(市) ・ 上小・長野は大きすぎる。また、行政的なつながりは上小であるが、水の面では佐久地域とも関わりが深い。佐久圏域の検討会にも参加する必要性を感じている。(市) ・ 具体的なつながりは上田市のみ。経営戦略に謡った地域貢献という視点から、協力できることがあれば協力していきたい。(企業局)
	広域・事業者間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道事業の基盤強化を図っていくことが重要。まずはそれぞれの事業体の課題を出し合って、その中で連携できるものはないか、協力し合えるものはないか検討していくというのが現実的なステップ(地事) ・ 料金徴収業務などは、それぞれの事業体で条例が異なり実現のハードルが高いかもしれないが、施設の維持管理業務等は比較的共通化しやすいのかもしれない。個別業務ごとに詳細な検討が必要。(地事)
	広域化等	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは水道を市町村個々の事業として完結できるかを考えるべきで、その結果として広域化や広域連携のメリットが見えてくる。どこの事業者が中心となるかというような検討の入り方はふさわしくない。(市) ・ 広域化は結果論であって目的ではない。30、40年経って見えてくるものであり、現時点ではまだ早い。(市) ・ 広域化しないという結論があってもいいのではないか。まずは、できることから広域連携して基盤強化するという考え方もある。(市) ・ 広域化のメリットが見えない。広域化したら個別的な課題はどうなるか、ひとつひとつについて検討していくのは、人員も財源もなく困難。(町) ・ 今後を考えると非常に厳しく、広域化して大規模な事業者を受入れていただけるのならばお願いしたいのが本音。ビジョンでは大局的には広域化を意識した記載を検討してもらえればと思う。(村) ・ 事業者で完結するのが基本だが、広域化を推進する国の意向もあるので、何らかの形で可能性としては残しておいた方がよい。広域化の可能性を探りながら現実的に実施可能な業務を広域化していく、ということでは。(企業局)

ウ 上小・長野圏域（長野地域）

課題について	水源水質 水量等	<ul style="list-style-type: none"> ・水源が心もとない地域がある。近隣事業者から水を回してもらえたらありがたい。(市) ・水源は自治体外に1か所と、自治体内の深井戸5か所。夏など渇水期は厳しい(町) ・水源は17箇所、主に地下水。松川、樋沢川の表流水は酸性水で、使える真水がない。(村) ・A地区の水は75%が鳥居川の表流水。上流の生活排水が入ってしまうので深井戸を掘ってきたが水質が良くない。水量は何とかやっつけていける。B地区の水は良質で、A地区に水をまわす案もあったが、鳥居川をはさんでの工事は莫大な金がかかってしまうので実現していない。(村) ・水量はあまり豊富でなく、夏場は渇水が非常に多く何とか系統間で融通し合っている。近隣事業者から水を融通も、神城断層地震以降水源が変わって、水に余裕がなくなったと聞いており、難しい。(村)
	計画的な 施設更新	<ul style="list-style-type: none"> ・配水池施設の耐震化が一番の課題。(村)
	人員確保 技術継承	<ul style="list-style-type: none"> ・水道技術継承については、水道事業の行く末を考えれば今から手を打たないといけないのは確か。ただ、同じ職員がずっと水道事業に携わるといったことはないので、それが問題。(市)
	経営健全 化、効率 化	<ul style="list-style-type: none"> ・合併後5簡易を抱え運営が大変。(市) ・上下水道料金が全国同規模自治体でトップクラス。(市) ・大口利用者の地下水転換が増えている。(市)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・水道の管理会社が倒産などで水道を維持管理できる資金がない民間の小規模水道に対してどの程度行政が支援していくか苦慮している。(市) ・工場の井戸水利用について条例で規制をかけている市町村が増えている。きれいな湧水が枯れたケースがある。工場に水道水を格安に販売するなど安易に掘らせないようにするようなことも考えていかなければいけない。(市)
連携等について	圏域区分	<ul style="list-style-type: none"> ・「上小・長野」を一緒にするというのは難しい。県企業局の関係で上田市との繋がりが強いのであって、上小とはほとんど関係のない事業者もある。(市)
	広域・ 事業者間 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模事業者からの支援について、規模が大きいからといってこういうことをやれと強制することはできない。実情にあわせていろいろ選択肢を考えなければいけない。(企業局) ・具体的な連携に向けては、近隣事業者であっても知らないことが多く、事業者毎の現状をきちんと整理しないと課題ややるべきことが見えてこない。(市) ・「資機材の共同購入」というが、事故対応は業者に任せており、業者が自ら部材ストックもしている。(村)
		<ul style="list-style-type: none"> ・神城断層地震等災害時は応援協定で非常に助かった。広域化しないにしても、そこはしっかり締結してもらえたらありがたい。(村)

<p>広域化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県のような県を軸に全域で統合というような事例もあるが、長野県では企業局は各市町村と横並び。先を見据えて一つの形を描くのであれば、投資の効率化などが検討できるだろうが、企業局がそれを担えるかという点、なかなか難しい。(企業局) ・広域化していくこと自体は一般論としてそうなのだと思うが、県企業局との研究会の中でも共同化等についての具体的検討はこれから。今回のような会議で将来的なものが見えてくる。県が窓口となってやることが必要。課題に対しての意見交換や、その対応策について県からの情報提供等により、各市町村で将来の水道のイメージがわいてくるといい。(市) ・広域化について、こうすればいいということが見えてこないのが現状である。(町) ・簡易水道のみの事業者のため広域の中に入ってもお荷物になるような気はするが、広域化した方がいいのかなという気はする。(村)
-------------	--

エ 諏訪圏域

<p>課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指摘される課題や、単独対応することの限界については、全て当てはまるような状況で困っている。資料上だと人員増だがこの人数で下水も担当しているので実質変わりはない。(村) ・公営上水道3か所、民営の簡易水道が18か所存在し、他市町村の状況とは異なっている。施設が非常に多いため、現時点ではまず公営水道の施設の合理化が必要。(市)
<p>連携等について</p>	<p>広域・事業者間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検針業務や料金等の窓口業務などの可能な部分から広域化を実施できればと考えている。(市) ・業務的な部分で水道事業としてメリットがあれば検討していきたいと思う。(市) ・薬品の共同購入について、一括購入等で購入単価が安くなれば魅力的である。可能であればそういうところから実施していきたい。(町) ・維持管理の共同化により費用等の削減が見込まれれば検討する価値はあるかなと思われるが、現時点では具体的なところは考えていない。(町) ・災害時における応急対応について、近隣の市町村へ応急的な水道供給をするために管路の接続等も検討してみてもどうか。(町) ・給水区域境界部の末端配水管は直径が小さく送水量も少ないため、管路を接続してもあまり効果がないのでは。(村)
<p>連携等について</p>	<p>広域化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道事業ビジョンには広域化や業務の共同化について考えていく必要性については盛り込んでいる。具体的な案がでていなく、意見もまとまっていないため諏訪圏域ですぐに実施することは難しい。(市) ・今年度アセットマネジメントを実施中であり、来年度は水道ビジョンを策定予定。広域化までは考えに至っていない。(市) ・アセットマネジメントを実施する中で広域化等についても考える場面はあるかと思うが、町の水道は比較的コンパクトで、広域化するメリットがあまり感じられず、現時点では広域化について考えていない。(町) ・湖周（岡谷、諏訪、下諏訪）と山間部（茅野、富士見、原）の地形を考えると、条件の違いから広域化はなかなか難しい。(町)

オ 上伊那圏域

<p>課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給水人口の減少、施設の老朽化、財政負担などの問題を抱えている（町） ・民間委託を検討しても採算性があわない。人材不足の不安のなか直営で全てやっている。（村） ・水の余力があるので、水をどんどん使ってもらいたいという気持ちはあるが、市町村によっては、水需要が想定以上に減ってしまって、水もいらぬという話も聞いている。（企） 				
<p>連携等について</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="300 526 448 1249"> <p>広域・事業者間連携</p> </td> <td data-bbox="448 526 1465 1249"> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者が減る、予算がない等の共通課題は当然あるので、それに向かって、広域化や共同委託の必要を感じる。広域化の推進を誰がコーディネートするのか、中心となる市か、企業団か、県か、役割分担が明確にできれば、細かい議論ができるのでは。（市） ・料金関係業務の広域化というのはできそうな気はする。（町） ・検針・料金徴収業務を民間委託しようと見積りを取ったが、かえって経費がかかってしまうので、周辺の自治体と共同で検討できればありがたい。（町） ・技術者不足の懸念はあり、育成ができるような広域化ができればさらにいい。（村） ・水質検査を共同化する際に、地元検査機関から難色を示されたことにも留意する必要がある。（村） ・技術者の確保と技術継承はたたき台の中に入れてもらいたい。横の繋がりの中で対応できればと思う。（村） ・それぞれ事業者が自分でしっかりやっという意識を持っている。連携という面で広域化ができればいいのでは。（企） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1249 448 1998"> <p>広域化等</p> </td> <td data-bbox="448 1249 1465 1998"> <ul style="list-style-type: none"> ・広域化ありきで県水道ビジョンに明記されても、具体的作業・議論は進まない。まずは、企業団から受水している団体+企業団+県で議論を深める必要がある。（市） ・広域の水をもってくれば非常に安定的な供給ができるが、飯島町、中川村は川で分断されるので難しい。水平的には議論がなかなか進まない。（村） ・広域水道の水が高低差的に辰野町までいっていないので、圏域全体としての広域化は難しい。（村） ・「上伊那広域水道整備計画」については承知しているが、時代に合わないところが出てきている中で、当時と同じように進めるのは無理がある。（企） ・勉強会を立ち上げるときに、市町村で温度差があるなと感じた。やりたいと思う理事者と、それは無理だという理事者がいるなかで、県で進めないと、なかなか進まない。（企） ・大規模な災害や渇水が少ないのでメリットが見えてこない。人口減とか、技術者が減っているというのは具体的にあるが、それがすぐ広域化というところには結びついてこない。（企） </td> </tr> </table>	<p>広域・事業者間連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者が減る、予算がない等の共通課題は当然あるので、それに向かって、広域化や共同委託の必要を感じる。広域化の推進を誰がコーディネートするのか、中心となる市か、企業団か、県か、役割分担が明確にできれば、細かい議論ができるのでは。（市） ・料金関係業務の広域化というのはできそうな気はする。（町） ・検針・料金徴収業務を民間委託しようと見積りを取ったが、かえって経費がかかってしまうので、周辺の自治体と共同で検討できればありがたい。（町） ・技術者不足の懸念はあり、育成ができるような広域化ができればさらにいい。（村） ・水質検査を共同化する際に、地元検査機関から難色を示されたことにも留意する必要がある。（村） ・技術者の確保と技術継承はたたき台の中に入れてもらいたい。横の繋がりの中で対応できればと思う。（村） ・それぞれ事業者が自分でしっかりやっという意識を持っている。連携という面で広域化ができればいいのでは。（企） 	<p>広域化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広域化ありきで県水道ビジョンに明記されても、具体的作業・議論は進まない。まずは、企業団から受水している団体+企業団+県で議論を深める必要がある。（市） ・広域の水をもってくれば非常に安定的な供給ができるが、飯島町、中川村は川で分断されるので難しい。水平的には議論がなかなか進まない。（村） ・広域水道の水が高低差的に辰野町までいっていないので、圏域全体としての広域化は難しい。（村） ・「上伊那広域水道整備計画」については承知しているが、時代に合わないところが出てきている中で、当時と同じように進めるのは無理がある。（企） ・勉強会を立ち上げるときに、市町村で温度差があるなと感じた。やりたいと思う理事者と、それは無理だという理事者がいるなかで、県で進めないと、なかなか進まない。（企） ・大規模な災害や渇水が少ないのでメリットが見えてこない。人口減とか、技術者が減っているというのは具体的にあるが、それがすぐ広域化というところには結びついてこない。（企）
<p>広域・事業者間連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者が減る、予算がない等の共通課題は当然あるので、それに向かって、広域化や共同委託の必要を感じる。広域化の推進を誰がコーディネートするのか、中心となる市か、企業団か、県か、役割分担が明確にできれば、細かい議論ができるのでは。（市） ・料金関係業務の広域化というのはできそうな気はする。（町） ・検針・料金徴収業務を民間委託しようと見積りを取ったが、かえって経費がかかってしまうので、周辺の自治体と共同で検討できればありがたい。（町） ・技術者不足の懸念はあり、育成ができるような広域化ができればさらにいい。（村） ・水質検査を共同化する際に、地元検査機関から難色を示されたことにも留意する必要がある。（村） ・技術者の確保と技術継承はたたき台の中に入れてもらいたい。横の繋がりの中で対応できればと思う。（村） ・それぞれ事業者が自分でしっかりやっという意識を持っている。連携という面で広域化ができればいいのでは。（企） 				
<p>広域化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広域化ありきで県水道ビジョンに明記されても、具体的作業・議論は進まない。まずは、企業団から受水している団体+企業団+県で議論を深める必要がある。（市） ・広域の水をもってくれば非常に安定的な供給ができるが、飯島町、中川村は川で分断されるので難しい。水平的には議論がなかなか進まない。（村） ・広域水道の水が高低差的に辰野町までいっていないので、圏域全体としての広域化は難しい。（村） ・「上伊那広域水道整備計画」については承知しているが、時代に合わないところが出てきている中で、当時と同じように進めるのは無理がある。（企） ・勉強会を立ち上げるときに、市町村で温度差があるなと感じた。やりたいと思う理事者と、それは無理だという理事者がいるなかで、県で進めないと、なかなか進まない。（企） ・大規模な災害や渇水が少ないのでメリットが見えてこない。人口減とか、技術者が減っているというのは具体的にあるが、それがすぐ広域化というところには結びついてこない。（企） 				

カ 飯伊圏域

<p>課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい村では、技術的な面が心配。維持管理面すべてを業者に委託すると、1,000万円以上の持出しとなり、到底支出できない。(村) ・水道会計を公会計に移行しなくてはならないが、現在の職員体制では移行に対応できない。(村)
<p>連携等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば施設整備面で連携をする場合、既存の水道管より太い管を敷設するとか、その際の費用負担をどうするかといった問題もでてきて、それなりに時間を要するが、リニア中央新幹線の関連事業の進捗との兼ね合いがあり、そんなに待ってられない。(市) ・北部5町村では、現在、水質検査を共同委託している。他に共同できるものがあれば拡大していこうという動きはある。(町) ・料金徴収関係一つとっても、他の自治体業務のシステムと一体になっているものやそうでないもの、検針機器がスマホだったり端末だったり、事業者によって異なるため、同じような業務だからといっても単純には共同化はできない。(町) ・企業会計を導入するのに財務会計システムを新しくする予定だが、料金業務を広域化した場合に、またすぐにシステムを入れ替えるとなると違和感がある。(町)
<p>広域化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な統合も視野になると、中核になるだろう市がリーダーシップを発揮しなくてはいけないだろうが、市の経営もとても盤石とは言い難い。広域化については、双方がともに win win の関係でないとうまくいかないし、市議会や住民に対しても説明ができない。(市) ・市町村ごとに水道ビジョン等の計画があり、取組むべき課題があるため、広域化を待つという話にはならない。(町)

キ 木曾圏域

課題について	計画的な 施設更新	<ul style="list-style-type: none"> ・ H22 年度に大きな投資があり、現在償還のピークとなっている。財源的にも厳しく、施設の延命化を図っていくことも考えていく必要がある。(町) ・ 施設は老朽化しているがどうするかは未策定。浄水場・配水池については、個別に対応している。管路については、手がかからない状況。(町) ・ 浄水場を更新しなければならないが、手が回らない。(町) ・ 単独では、更新計画を進めることもできず、維持管理だけでも大変。(村) ・ 有収率が低い。(村)
	経営健全 化、効率 化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易水道が 2 事業。給水区域によっては 10 戸程度しかないところもあり配水効率が悪いが、止めるわけにはいかない。(町) ・ 町村合併をしたが、給水区域間の管路の接続は無理。簡易水道の公会計への移行を予定しているが、この対応だけでも大変。(町) ・ 簡易水道の 2 つで、料金は別。スキー場・保養所は高額で住宅部を安価としているが、住宅部については、料金を 2 倍にしても黒字にはならず、経営は厳しい。統合はしない。(村) ・ 高料金対策で一般財源からの繰り入れが必須。(村)
連携等について	広域・ 事業者間 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の共同委託等の受け皿について、検討の場を県で設定し、その議論が深まってくれば、協議会を立ち上げる、という考えはある。(町) ・ 広域連合では郡町村の土木設計業務を担当しているので、同じ発想で広域連合を交えて検討すればよいのではないかと。(村) ・ 以前は、郡内に水道協議会があった。再度水道協議会を設けて話し合いができればよい。(村) ・ 水質検査は統一して発注できれば安価になるのではないかと。(村) ・ 広域連携する場合には、国や県の強力な支援が必要。(村)
	広域化等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のところで手いっぱい。(町) ・ 区域を跨いで管路をつなぐというような広域化は地形上明らかに無理。(町) ・ 郡内の水道管理について、人口減少という状況の中で大きな課題はあり、木曾郡としてどうするかということを考える必要がある。現場レベルでは課題について意見交換する程度で終わってしまい、その先につながらない。もっと上のレベルで議論していくことが必要。(村) ・ 木曾圏域だけでどうかなるか、場合によっては他の地域に何かをお願いすることも出てくるのではないかとという視点からも上のレベルでの議論は必要。(村)

ク 松本圏域

課題について	職員確保 技術継承	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道2名体制。地元業者の育成が重要と考え、緊急時のトラブルに対応できるよう教育している。(村) ・上水道担当職員は頭数では1人だが係で回しており、忙しいが慣れてくれば業務は回していけると考えている。(村) ・施設の点検に半日、その他事務にもう半日、本管や施設でトラブルがあれば1人で対応(村)
	経営健全 化、効率 化	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部の人口減少地区の扱いが難しい。施設のダウンサイジングには多額の費用がかかり、簡単にはできない。一方でそこに住んでいらっしゃる限り水栓の権利は残ってしまう。今後こういう区域が出てくるのではないか。(市) ・人口減少により住民が1名しかいない区域もある。こういう地域が増えてくると非効率な水道となってしまう。(村) ・統合認可申請に伴って多額の経費がかかっており、経営を圧迫している。一般会計からの繰入金でまかなっている状況。(村)
連携等について	広域・ 事業者間 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの中に策定後の広域連携の検討組織について盛り込むべき。(市) ・大規模事業者からの技術支援をしていただけたとしても、村内の事情を把握している職員がいなければ指示もできないという懸念がある。(村)
	広域化等	<ul style="list-style-type: none"> ・県企業局の「公営企業経営戦略」では今後10年間は統合せずに自分たちで事業をやっていくとしている。県ビジョンで広域化を推奨するのであれば整合を図るべき。(市) ・広域化を進める場合、現場から持ち上げるのは難しいが、県が押し付けるのも無理な話で、この手の話は非常に難しい。(市) ・合併に伴う水道事業の統合により、1つの広域化ができたのではないかと考えている。(村) ・受水市村で企業団等を作ってもらって移管するという方向性で検討を進めたが、進め方に多少強引な部分があり受水市村は抵抗感を持たれたと聞いている。この経緯から、広域化の話は受水市村の自発的な意思によってなされるものであると考えており、そのような動きがあれば、検討を再度進めるといふ可能性は消えてない。(企業局)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・県ビジョンは都市部・平坦部の広域化に重点を置いた記述方法に見えるが、課題の多い中山間部への対策にもっと重点を置くべき。(村) ・県はビジョンだけ策定して、その後は事業者がそれぞれビジョンに基づいてやっていきなさい、ではなく、県のバックアップ体制を考える等、もっと突っ込んだ議論が必要である。(村) 	

ケ 大北圏域

課題について	職員確保 技術継承	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の継承、経験がある技術者の確保が必要。(村)
	経営健全 化、効率 化	<ul style="list-style-type: none"> ・料金をいただいている以上水質、水量をキープする必要がある。1軒あれば維持しなくてはならない。しかしそれに見合った料金は徴収できない。こういう地域は事業としてやっていくことが合理的なのか。それとも、切り離すというようなことの方が合理的なのかは、判断が出来ない。(市) ・簡易水道事業が補助対象から外れてしまうため小規模な水道施設も含めて統合を進めているが、簡易水道となることにより水質検査費用が500万円も余計に掛かる。名前が変わるだけで、認可を取り直すのにも1千万円も掛かる。(村)
連携等について	広域・ 事業者間 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の共同化や共同発注等によりコスト削減等の余地はあると思うが、一方で地元の配管業者の衰退を加速させる可能性がある。地元業者にいないと災害時の対応が困る。(市) ・広域連合の土木振興係に下水の技術者が配置されている。下水関連の業務は落ち着いてきていると見受けられるので、そこに上水の技術者を置き、各事業者の工事に関する設計積算や現場管理の出来る広域的な受け皿を設けられないか。(市、村) ・受け皿があれば、料金・検針事務の共同化等も考えられる。(村)
	広域化等	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部だけでなく、村部の簡易水道の現状を国へ情報提供し、その上で統合化が目的ではなく、水道法第1条の目的が最優先されるべきと考える。(市) ・豊富で良質な水があり、地域で維持管理ができるのであれば、集落ごとの方が金も掛からず、統合はしなくてもよい、という考えもある。(市) ・統合ありきではなく、非常時でも早急に復旧が可能となるコストの掛からないコンパクトな水系の維持も重要な施策(市) ・統合できない事情もあり、地区水道も併せて考えていかなければならない。(村)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の簡易水道は、湧水を水源としており、人口減に伴い水源の里山の管理も出来なくなると推測される。水源の保全が重要な課題と捉えている。(市) 	

コ 北信圏域

課題について	計画的な 施設更新	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少と施設老朽化が大きな課題（市） ・アセットマネジメントも更新計画もこれから。市行政全体の中で、首長が理解した上での取組になる。（市） ・アセットマネジメントは実施したが、耐震化計画は未策定。（村）
	経営健全 化、効率 化	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模な法定外水道が点在しており民営も多く、どうしていくか。（市） ・浄水場改修に5億円程度の投資が見込まれる中、今後維持管理経費もかかってくるが、どこまで料金に反映できるか。（町） ・水運用上のメリットがないため、統合すべきかどうか。（村） ・簡水と小規模水道を統合したが、集落毎に離れた給水区域であり、ただ紙の上だけの話で、むしろ財政的な厳しさが増した。（村）
連携等について	広域・ 事業者間 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・下水では県生活排水課が協議会を立ち上げる方針がある。北信はみな上下水道を一体的に行っているため、そことの関係も検討すべき。（市） ・具体的な連携策の提示で少しは広域連携についてのイメージは持てた。実際できるかどうかはやってみなければわからない。（村） ・長野県北部地震の被災経験から、いざという時の事業者間の連携はありがたかったし、広域的な応援体制は重要であると感じた。（村）
	広域化等	<ul style="list-style-type: none"> ・広域化は水道事業と市町村を切り離しては考えられない。市町村合併しなければ一本化はできない。（市） ・ソフト面の広域化をするにしても、給水原価も供給単価も違い、施設の老朽化や耐震化の状況等も異なるなかで、どのように料金をすり合わせていくのか見えてこない。ハードの面でも水融通上のメリットがない。（市） ・メリットのありなしが出てきたときに、それを住民が理解してくれるのか。（市） ・まずはそれぞれの事業で効率化を進めていく必要がある。経営基盤を強くするのであれば、当面は統合よりも事業者間で連携していくことを考えていった方がよい。（村）